



ALUMNI COMMUNICATION PAPER

兵庫県立川西北陵高等学校

同窓会報

Vol.3
Feb. 2017

Contents

同窓会長・学校長あいさつ	2
活躍する卒業生	3
・松浦 徳治 (4回生)	
・山田 達也 (7回生)	
理事会報告	4
会計報告	5
母校だより	
・校外活動	5
・お祭り活性化プロジェクト	6
・国際交流	7
ふるさとひょうご寄附金	8
会報賛助金報告	8
原稿募集	8



ㄥ 同窓会長あいさつ

同窓会の皆様におかれましては各方面でご活躍のことと思います。川西北陵高校同窓会会長酒徳浩之（5回生）と申します。川西北陵高校の同窓会会員数も一万人を超え、私が卒業した5期から比べるとかなりの会員数を持つ会となって参りました。母校川西北陵高校も30周年を越え地域に根付いた高校として歩んでおります。その間、川西地域では新設校だった川西北陵高校の名を地域に知らしめたのは、もちろん学校の諸先生かたがたの努力もございましょうが、3年間生徒として、また卒業後も各方面でご活躍の会員の皆さまの努力の賜物と思います。今後も母校の発展に、また同窓会の活動にご助力いただけますようお願いいたします。

さて、今年度も同窓会報を発刊することが出来たことをうれしく思っております。また今回から前回の会報時に説明したとおり基本的に全会員への郵送は3年ごととしそれ以外の年はビキタ等インターネットでの配信とすることによりコストを抑える方向とさせていたいただきました。その初年度と言うことで今回はインターネット配信とさせていただきます。逆に在校生にも同窓会の活動を知っていただく一環として、学校より生徒全員に印刷した同窓会報を配付させていただきます。今後も同窓生との架け橋として、また同窓会と現役世代の架け橋として取り組んで参ります。

また前回会報を送るにあたりご協力いただける方に会報賛助

金（寄付）をお願いいたしました。ご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。これはあくまでも会報を受け取った方すべてに強制的にいただくものではありません。会報を発刊し郵送するためには会員数がおおよそ一万人いるため150万円ほどお金がかかります。ご協力いただける方に郵送での会報発行ごとに会報賛助金をお願いしたいと思います。これからも引き続き会報発行をしていくためにできればご協力よろしくをお願いいたします。

最後に役員の募集についてお願いします。本会も30周年を越え、会報の定期発行や次世代に向けたホームページでの同窓会活動報告などを考えております。理事会も定期開催を始めましたが、お手伝いいただける方が少ないのが現状です。ご助力いただける方ぜひご一報ください。

以上簡単ではございますが、近況報告とごあいさつとさせていただきます。今後とも会員の皆さまにお応えできるよう役員体制を整え、活動して参りますので、ご協力賜りますようお願いいたします。



同窓会長
酒徳 浩之
(5回生)

ㄥ 学校長あいさつ

県立川西北陵高等学校同窓会の皆さま、はじめまして。平成28年4月1日に着任いたしました第12代校長の磯村要と申します。元々、国語教師ですが、前任は県警察学校に副校長として2年間勤務しました。その前に県教育委員会に事務局職員として12年おりましたので、県立高校で仕事をするのは都合14年ぶりです。校長1年目、まだ初心者マークも外せませんが、少し異なった道歩んできた経験を生かして、微力ながら「北陵」教育の発展に全力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

本校の校訓は、御存知のように「克己 協調 創造」です。初代校長岩地昭は、校訓を「学校百世の歴史の礎」と考え、「克己」と「協調」を根源とし、21世紀を目指す教育の中で最も重要である「創造」する力の育成という3本立てとして定めました（「開校時の思い出」昭和60年発行、育友会新聞「北陵」第4号）。それから34年が経ち、IT革命などにより、世界はまったく新しく生まれ変わろうとしています。その中で、己にうち克ち努力し続ける力、さまざまな人と力を合わせる力、新しい社会を造っていくとする力は、ますます重要になってきています。

校訓に基づいて、開校当初は、学校経営の重点を勤労体験学習と国際理解教育といたしました。現在は、本校の教育方針として、キャリア教育とグローバル教育を掲げています。時代や社会の要請に応じて、勤労体験学習はキャリア教育に、国際理解教育はグローバル教育に姿を変えたと考えれば、本校の教育の中核は、創立時から一貫して変わっていないと言えます。2本柱の実践として、本年度は、

- (1) 「総合学習」での職業人インタビューの新規実施
- (2) 川西市選挙管理委員会と連携した18歳選挙啓発動画の作成
- (3) 西オーストラリア州の高校生を受け入れた国際交流
- (4) JICAや川西市等の支援を受けた自己表現・探究活動
- (5) 生徒会が中心になった学校行事の企画・運営

等を実施し、北陵生たちが学校の中だけでなく、さまざまな地域に飛び出して、いろんな方々とともに、いきいきと活動することができました。

これら現在の「北陵」教育が推進できますのも、ひとえに、お一人お一人思いを持って北陵に集い、学燈を受け継いでいただいた同窓生の皆さまのお陰です。それぞれの回生で、時代に先駆けた教育活動を倦まず弛まず、力強く進めていただいたことに心から敬意を表します。また、同窓会理事会様の御高配の下、国際交流などに御支援をいただいていることに深く感謝申し上げます。今後とも、「学校百世」に向けて教職員一同、努力することをお誓いするとともに、引き続き川西北陵高校を温かく見守っていただくことをお願いし、同窓会報発行に際しての御挨拶といたします。ありがとうございました。



校長
磯村 要

両親が川西市の大和で「コトブキ」という理容室を経営していたこともあり、自分もゆくゆくは店を継ぐのかと思いつつ幼少期を過ごしていました。決意を固めたのは北陵高校時代で、その理由は機械には出来ない仕事なので廃れることのない職業であること、そして自分次第で道を切り開いて行けることでした。卒業後は専門学校に進学して、専門学校卒業後3年間は尼崎の店舗での修業、その後実家の店での8年間の勤務の後、2001年に現在のZEAKをオープンすることになりました。開設当初は美容師の妻と一緒にユニセックスサロンとして店を営業していましたが、妻が出産のため、店頭に立てなくなったのを機に、メンズオンリーのヘアサロンへ大きく舵を切りました。理容と美容の違いは、ざっくりと言えば理容は男性のお客様をメインに、美容は女性のお客様をメインとしてさせていただくことですが、理容師の優位性としては美容師には出来ないお顔剃りが出来ることです。しかし専門学校の理容科と美容科の生徒比率は1:9であり、理容室は減少傾向にあります。ほとんどの人が理容と比べて華やかな美容の世界を目指すことで、美容の世界は飽和状態になっています。逆に言えば、理容の世界には、大きなビジネスチャンスが存在しているとも言えるのです。理容に舵を切ったことが、その後の私の事業展開に大きな影響を与えたのは言うまでもありません。まさに生きる術を見つけたと言えます。おかげさまで、ZEAKを利用

して下さるお客様は増加傾向にあり、現在は山下本店を含め、平野、川西能勢口、箕面牧落でも店を構えさせていただいています。

今では理容師として働いていますが、私は元々、手先が器用だとか、優れたファッションセンスを持ち合わせていたという訳ではありません。そんな私があるのは、技術的に特別な事をするのではなく、当たり前のことを当たり前に、そして地道に努力し続けてきた結果です。この世界は営業時間以外に、カットの練習など、新しい技術の勉強をするというのが常識です。ですので、この世界で生き残っていくには、前へ前へ向かって進んで行きたいという強い気持ちなしには成り立ちません。逆に言うと、その熱い思いを持っている人なら誰でも、十分に成功するチャンスがあるとも言えます。実際、ジークに2015年に就職した30回生の柳本吹雪君も強い思いを持ってこの世界の門を叩き、今必死に理容師に向けて奮闘しています。

元気にガツガツ頑張ろうという人がいたら、是非とも連絡して下さい。ジークでは高卒で採用後、店で働きながら通信で専門学校に通っていただくので(専門学校の費用は会社が負担します)店で実務を勉強しながら理容師の国家資格を取る事が出来ます。北陵生のみなさん、この世界で「前へ、前へ」進みたいと思っている方がいれば、いつでも大歓迎です。お待ちしております。詳細は「<http://www.zeak.jp/>」をご覧ください。



一歩一歩、確実に前へ

松浦 徳治 4回生

Tokuji Matsuura



ZEAK hair design
山下本店
川西市東畦野6-13-1
TEL 072-795-1434

◀ 左: 柳本吹雪さん(30回生)

活躍する卒業生

小さなパスタ屋を営んでおります。この業界の仕事に就いて、ご指導頂いた中で頭に残っている言葉があります。「何をやるかが問題ではない。どのようにやるかだ。」世の中には様々な業種があり、色々な形態があり、熾烈な競争が日々繰り返されています。その中で多くのニーズに応え、社会に認知され貢献している会社があり、人がいます。その逆も然りです。皆さんにも、身近でこういった事例に当てはまるのを感じたことがあるかと思います。「どのようにやるか」が問われる点において、裏を返せば、「どうしたっていい」のです。もちろんこの「どうしたっていい」には責任と覚悟が付きます、それはどの職種に就こう

が同じことなのですが、どうしても無難な選択や、「一般的」な考え方の範疇で事を進めてしまいがちです。社会帰属意識、中流階級意識などが色濃くある場合は特にそういう傾向になりますよね。(もしくは責任と覚悟が無いパターンでの「どうしたっていい」の場合は、無用の長物扱いを受けてしまいますが…)でも、無難な選択や「一般的」な考え方はどこにでも存在するので、他との差がなく、淘汰される側に回されます。私のように自営の場合は特にその「やりかた」すなわちノウハウによる「価値の創造」の部分が大事になってくるのですが、これが相当に難しい。これまでに同じ業種で様々な経験をさせて頂き、それらを駆使する訳ですが、所変わればやり方も変わる、時代が変われば流れも変わる。全部が全部フィットする訳がないので毎日毎日「じゃあ、どうする?」と自問自答する日々の連続。神経を毎日すり減らしています。でも、これが「楽しい(ん)です。僕の性格には合っている。とある本に書いてあった「男なら人の作ったモノではなく、自分で作ったものを売って生きる」一から、もっといえばゼロから自分で築きあげ、社会のニーズに合

い、認知され、貢献し、対価が頂ける。一生働く男家業にとってこれ以上の名誉な事はなく、それを目指す環境はとてつもなく辛く厳しいですが、「楽しい」のです。今尚、色々な角度から無い頭を絞って、試行錯誤、悪戦苦闘中ですが、今の立地で一番長続した店として、大家さんから驚きの賞賛を頂いております。(私以前の数々の店は続きませんでした)こんな小さな店が、権威あるミシュランガイドにも掲載して頂いたことも嬉しく思います。みなさんは今どんな将来像を描いていますか?どんな「自分ならではの」オリジナルな人生の歩き方をしていますか?もっと身近な話でいうと、どんな「勉強方法」をしていますか?勉強をすることが大事ではなく、何の為に、今の貴重な時間を使って、どのように勉強するのか?が大事なのですよね。ご自身の人生を楽しむ為に、どうか自分に責任と覚悟を持って、固定観念に縛られず、進んで行って下さい。私もまだまだ頑張って「レールの無い、いばらの道」を歩んで行きます。詳細は「<https://www.facebook.com/PastaPassoAPasso/>」をご覧ください。



手段の探求をやめたときにだけ、限界がくる

山田 達也 7回生

Tatsuya Yamada

Pasta Passo a Passo 猪名川町紫合字白山前589-1 TEL 072-765-0724



理事会報告

平成28年度 同窓会理事会報告

平成28年8月7日（日）11時より、県立川西北陵高等学校図書室にて開催されました。

出席者は同窓会役員および事務局、同窓会理事4名と学校側より磯村校長先生、同窓生担当である井内先生、小東先生、国際交流の説明で青木先生にお越しいただきました。

まず、磯村校長先生より学校現状報告があり、今年度入学生の受験時は学校の定員割れがおきている、学校側の取り組みとしてオープンハイスクールなどに力を入れ、定員確保を目指し、英語の北陵を復活する、国際交流の説明があり交換留学の現状報告がありました。

グローバル社会で求められる語学力、コミュニケーション・プレゼン能力、チャレンジ精神、異文化理解の育成と、自己の適性や個性を把握し“学びの意義”を理解することを重点目標とした特色選抜、特色選抜の生徒が携わった18歳選挙権PR動画「18からなんだったって」の紹介等のお話がありました。

続いて、酒徳会長より、同窓会理事会を開くに至った経緯、同窓会の現状報告を交え挨拶がありました。

その後、青木先生からパワーポイント、スクリーンを使用して国際交流の現状報告、西オーストラリア州NMSH（ニュートンモアシアハイスクール）との交流事業の紹介、特色選抜クラスの現状報告、選挙呼びかけPRビデオ「18からなんだったって」の紹介、校外活動として、「自己表現」授業に卒業生の経営するお店に訪問し動画にまとめるという作業の紹介、卒業生の報告、ふるさと納税寄附金、卒業生の経営するお店を紹介等がありました。

続いて議事に入り同窓会会計より平成27年度の会計報告をし



ました。その後同窓会会計監査より会計監査の報告がありました。平成28年度の会計案を同窓会会計から提案し、理事会に承認を求めました。

その後採決が行われ平成27年度会計報告ならびに会計監査報告、平成28年度の会計案は質問は特になく承認となりました。

最後に副会長から閉会の挨拶があり学校側に対し、受験生獲得の為のプレゼン能力の向上、広報アピールの向上を提案しました。

同窓会に対し、特色選抜の生徒達が広報活動に力を入れているのに役員の広報活動が出来ていないことが課題であるとの話がありました。

閉会后、参加理事の方と磯村校長先生、同窓会役員、母校の先生方との懇親会があり、親睦を深めることができました。

以上

理事会に参加して思うこと

9回生 堀切 智子 理事

平成28年8月7日に行われました同窓会理事会に参加しました。

同窓会の平成27年度の活動・決算報告、平成28年度の活動・予算決定があり、すべての項目において、滞りなく議事が進みました。

これもひとえに同窓会を当初から率いていただいている役員の方たちのおかげだと思います。本当にありがとうございます。

ただ残念ながら、役員の方たちにご尽力をいただいているにもかかわらず、同窓会理事会への参加率があまり上がっていないのが現状です。

私も最初は同窓会理事になっていることをすっかり失念しておりました。同窓会理事会の通知はがきももらってもまだピンと来なかったのが真実です。このような方がまだ

まだたくさんおられるのではないのでしょうか？

理事会は現在役員の方たちの力だけで成り立っています。しかし、これから同窓生が増えてきて大きくなっていく組織を少人数で守っていくには限界もあります。これからは同窓生の力がどんどん必要です。

生徒は入れ替わっていきますが、学校は私たちが通ったあの場所をずっと守っています。

理事会に参加がてらでも、理事でない皆さんも一度見に来ませんか？

川西北陵高校は創立30年を越えたばかり。ということは、同窓会も同じだけの歩みなのです。まだまだ同窓生のために、これからの在校生のために何かできることがたくさんあるはずですよ。それを一緒に皆さんで見つけていきませんか？

会計報告

平成27年度 川西北陵高校同窓会収支決算書

収入の部 (単位: 円)				
科目	予算額	決算額	増減(△)	備考
繰越金	243,078	243,078	0	
会費	1,501,800	1,480,800	△21,000	
特別会計より	1,500,000	1,549,453	49,453	同窓会報発行の為
雑収入	122	2,132	2,010	預金利息等*1
合計	3,245,000	3,275,463	30,463	

*1. 同窓会維持費(2,000円)

支出の部 (単位: 円)					
科目	予算額	決算額	残額	備考	
会議費	0	0	0		
総会費	0	0	0		
理事会費	200,000	27,642	172,358	理事会懇親会費用	
事業費	事業費	500,000	340,200	△50,200	卒業記念品(ボールペン)
			210,000		杉の木賞(パーカー)
	広報費	1700,000	189,000	△15,148	ピキタサーバー管理費
			6,696		新会員ピキタID配布
事務費	事務費	50,000	1519,452	同窓会報Vol.2発行費	
		50,000	0	学校内施設整備	
		50,000	200,000	0	国際交流支援
交通・通信費	0	0	0	郵便切手・電話代・交通費	
行事積立金	500,000	0	500,000	周年行事積立金	
予備費	45,000	5,000	40,000	慰労金	
合計	3,245,000	2,572,586	672,414		

[備考]

収入総額 ¥3,275,463 - 支出総額 ¥2,572,586=残額 ¥702,877
 今年度、事務のミスで行事積立金を3月31日までに定期預金に入金できませんでした。
 平成28年5月8日

会計 宇高 敦子 岸上 亜沙美

平成28年度 川西北陵高校同窓会予算

収入の部 (単位: 円)				
科目	28年度予算額	27年度決算額		備考
繰越金	702,877	243,078		
会費	1,863,000	1,480,800		2学年、3学年
特別会計より	0	1,549,453		同窓会報発行の為
雑収入	123	2,132		預金利息等
合計	2,566,000	3,275,463		

支出の部 (単位: 円)					
科目	28年度予算額	27年度決算額		備考	
会議費	0	0			
総会費	0	0			
理事会費	50,000	27,642		理事会開催費	
事業費	事業費	600,000	340,200		卒業記念品費
			210,000		杉の木賞
	広報費	300,000	189,000		ピキタサーバー管理費
			6,696		新会員ピキタID配布
事務費	事務費	50,000	1519,452		同窓会報Vol.2発行費
		50,000	0		クリアホルダー代
		50,000	200,000		0
交通・通信費	0	0	0	郵便切手・電話代・交通費	
行事積立金	1300,000	0	0	周年行事、会報発行のための積立金	
予備費	16,000	5,000			
合計	2,566,000	2,572,586			

[備考]

会費は、2学年(@3,000×316名)と3学年(@3,000×305名)の合計である。
 行事積立金は、前年度の積み残しを鑑みました。

母校だより

from alma mater

校外活動

川西市選挙啓発

特色類型3年生6名が川西市選挙啓発キャンペーン『18からなんだって』に登場しました。

動画はこちら <https://www.youtube.com/watch?v=RM7Z0c9SWfs&feature=youtu.be>

北陵高校の特色類型(探究と表現類型)は1年生・2年生でそれぞれ自己探究・自己表現の2科目を受講するカリキュラムとなっており、3年生では類型に特化した授業はありません。今年度は18歳から選挙権が与えられる記念すべき年となりましたが、川西市の選挙啓発キャンペーンの一環として本校特色類型の3年生に声がかかり、市の広報活動のお手伝いをする事となりました。

特色類型の生徒は2年生の自己表現の授業の一環として、川西市のふるさと納税PR動画を制作したり、地元のお祭り活性化プロジェクトに参加したりと普段から市と接点があります。今回は18歳選挙権や若者の政治参加の重要性を特色類型3年生6人のメンバーで考察した後、川西市出身のプラントハンター

にしはたせいじゅん
 西島清順さんにインタビューする形式で動画撮影が行われました。インタビューの様子は『広報かわにし milife』やNHKニュースでも大きく取り上げられましたので、目にされた方も多いのではないでしょうか。

特色類型では今後も様々な企画にチャレンジしていきます。皆さま応援よろしくお願いたします。



『広報かわにし』にも掲載されました。



http://www.city.kawanishi.hyogo.jp/koho/koho_kawanishi/21174/201607.html

お祭り活性化プロジェクト

探究と表現類型：2年生・校外活動

特色類型通信【ZEAL】より抜粋

川西市役所主催、地域まちおこし団体だいわん企画運営のひと・まちおこしセミナー2016「祭りの魅力ってなあに？」として9月17日（土）、10月15日（土）、11月26日（土）の計3回の講座に参加してお祭りの魅力について考えました。

9月17日には、茨城県在住の神輿職人、宮田宣也さんの講演会でした。宮田さんは先日NHKのドキュメンタリー番組にも取り上げられた方で、おじさんの代から続く神輿職人をする傍ら、各地方のお祭りを渡り歩きながら日本の祭りを盛り上げている「お祭り男」です。講演会では、「神様」「神社」とはなにか、「お祭り」とはなにかなど、普段の生活であまり考えないようなことを考える機会になりました。講演会后、北陵生5人は宮田さんとすっかり仲良くなり連絡先の交換もしました。

10月15日には実際に山下のだんじり祭りに参加し、現状の調査をし、祭りに対する若者離れへの対策を考えました。放課後遅くまで残って内容について話し合い、動画編集やパワーポイント作成などの発表準備を進めました。

そして11月26日、10数名の参加者の元、アステ市民プラザで発表をしました。最初の自己紹介ではそれぞれが個性を出してばっちり参加者の心をつかみ発表をスタートできました。まず祭りについて説明し、参加して下さった宮田さんへの生インタビューをしました。次に山下の祭りの歴史について発表しました。実際に参加した祭りの様子を動画とともに解説もしました。最後に山下のだんじり祭りの現状と課題と対策について発表を行いました。発表時間は約30分でしたが、あっという間に感じるほど、充実した発表になったと思います。質疑応答をした後、参加者とワークショップを開催し、「理想のお祭り」について参加者といろいろな意見を出し合い、「これからの祭り」について考えました。

準備期間も長く、かなり苦労したかと思いますが、宮田さんとのつながりやTV番組にも出演するという貴重な経験もできました。それぞれが自分の任された分担に対して責任をもって準備に取り組み、当日は「うまく発表しよう」とか「間違えたらどうしよう」と緊張し不安になる気持ちをおさえて、「発表を笑顔で楽しむ」ということに重点を置いて迎えられたからこそ今回の発表が成功(?)で終えることができたのではないかなと思います。

12月14日から始まる校外活動を控えている皆さん！「発表を笑顔で楽しむ」という気持ちで頑張ってください。ほかの人には経験できないことを君たちはやっています。これまで探究と表現類型として学んできた2年間の力を如何なく発揮して楽しんでください。

準備で気をつけたこと

30分間という長さのプレゼンテーションだったので、話し合った内容やまとめた内容が多くあったのですが、パワーポイントにはすべて文章で書きあげてしまうのではなく、要点をまとめて簡潔にまとめあげるようにしました。動画では、所々にキャプションを入れて、内容に沿ってより詳しい説明を加えました。定期的に放課後集まり、こまめに内容の確認をしました。



活動を終えての感想

このチームは他のチームより活動の始まりが早く、準備期間が少し長く、さらには活動回数も多かったため、より濃い内容のプレゼンテーションになったと思います。30分間という長さのプレゼンテーションは今までに経験したことがなく、準備期間は短いように感じましたが、とても良い経験をする事ができました。



当日に気を付けたこと

学校外のプレゼンテーションだったため、自己紹介として名前と部活、得意なことを紹介しました。また発表中は、パワーポイントの操作を発表が終わった人が行い、話している人に向かって相槌を打つなどのジェスチャーを取り入れていくことができました。発表後には理想のお祭りについて参加者全員でのグループ・ディスカッションを行い、様々な意見を出せました。



成功の秘訣

色々な場所を訪れ、たくさんのお話を聞きましたが、それぞれがメモを取り、学校に戻ってきてからその内容をみんなで共有し、何度も話し合いを繰り返したことにより、みんなが共通の理解をしてプレゼンテーションをしたことが、多人数で1つのプレゼンテーションを成し遂げることができた秘訣だと思います。理解を深めることは、何事においてもとても重要なことだということに気が付くこともでき、良かったと思います。

国際交流

ニュートンモア高校
研修団訪問を終えて特色広報部国際理解担当
小濱佳代子西オーストラリア州ニュー
トンモア高校交流訪問事業で、
去る9月25日から10月2日まで

研修団15名（校長、教員1名、保護者1名、生徒12名）が本校に滞在し、授業参加とホームステイを体験しました。この交流事業において、受け入れを今回初めて担当しました。昨年の夏に本校生徒15名がニュートンモア高校を訪問した際、手厚いもてなしを受けましたので、少しでもそのお返しができればと思いつつ様々な活動を企画しました。

まず、ニュートンモア高校研修団が日本に到着した当日に本校でホストファミリーとの対面を兼ねた歓迎会を開きました。本校の生徒たちだけでなく、ニュートンモア高校の女生徒たちにもホスト生徒たちが準備した浴衣姿で出席してもらい、とても華やかな会となりました。リラックスした雰囲気の中、PTAの方が用意くださった寿司やサンドイッチなどの昼食や飲み物をいただきながら、心温まる交流を楽しむことができました。

そして翌日には、体育館で全校生徒を集めて歓迎式を行いました。まず吹奏楽部がオーストラリアの方々にとってソウルソングとも言える「ワルチング・マチルダ」と、和太鼓の音が印象的な「八木節」を演奏して歓迎ムードを高めてくれました。記念品交換として、兵庫県指定伝統的工芸品の有馬人形筆を贈り、ニュートンモア高校からはアボリジニーの楽器と花瓶をいただきました。英語と日本語での司会とスピーチ、生徒紹介などがあり、式の最後はニュートンモア高校による歌とダンスで大いに盛り上がりました。

その後の2日間は、茶道・書道・美術・音楽・家庭科の特別授業を行い、日本文化を体験してもらいました。筆と墨汁を使って好きな漢字を書いたり、沖縄サンシンを弾いたり、出汁の旨味が効いた澄まし汁を食べたりと、来日しなければできないような数々の貴重な体験を提供できました。特に美術の授業では、堺のお祭りですら実際に使われた提灯に絵付けをしてもらいましたが、これは私たち日本人にとっても珍しく、貴重な日本文化のお土産になったのではないかと思います。また、自己表現の授業では、本校生徒による「日本文化についてのプレゼン」の評価をしてもらいましたが、どの生徒のプレゼンも来日したばかりの研修団にとって興味深く、役立つ情報が満載でした。特に日本語教師のキング先生には、それらをまとめた小冊子が日本語の授業の良い教材になると大変喜ばれました。

その他にも、通常授業への参加、姫路城への一日遠足、インスタントラーメン記念館でのチキンラーメン作り、ホームステイなど、様々な体験を通して両校の教員、生徒同士が交友を深める姿を見ることができました。

PTAから歓迎会ですでにお土産として贈っていたいただいた和風の額入りアートに加え、送別会では、同窓会からも文鎮とボールペンを一人ひとりにプレゼントしていただきました。ニュートン

モア高校のカー校長からは、「皆、まるで王様・女王様であるかのようなhospitality（おもてなし）を受けました」と感謝され、「これからも末長くこの友好関係を続けていきたい」とのお言葉をいただき、感動を覚えると同時に、ほっとした気持ちでいっぱいになりました。

以上のように、1週間という短い期間の出来事でしたが、そのための準備に多くの時間と努力を要したこともあり、両校の生徒たちが異文化に触れて多くを学び、交流を楽しむ様子を見ることができたことは、私にとって大きな喜びでした。こうして受け入れを無事、計画通りに行うことができたのも、PTAの方々からの適切なアドバイスや寛大なご支援、そしてニュートンモア高校の生徒たちを家族の一員として暖かく迎え、お世話してくださったホームステイファミリーのご協力のおかげと、心から感謝しています。すでに来年のオーストラリア訪問の準備も始まっており、多くの生徒たちがその機会を捉えようと楽しみにしているようです。その際には再びご協力、ご支援の程よろしく願いたします。

2016 Welcome Australians Year
25 Sep. - 2 Oct.

参加生徒：12名（男子4名・女子8名）



1 到着	ホストファミリーと対面・歓迎パーティー	ホテル泊
2 北陵	歓迎式典・特別授業受講(書道) 校外学習(インスタントラーメン発明記念館)	ホテル泊
3 北陵	特別授業受講(茶道・美術・家庭・音楽・自己表現)	ホテル泊
4 北陵	ホスト生徒と通常授業参加・ 類型生徒と交流会・部活動見学	ホテル泊
5 北陵	校外学習(姫路城周辺)・ホームステイ開始	ホームステイ
6 北陵	ホスト生徒と通常授業参加・送別会	ホームステイ
7 休日	ホストファミリーと休日を過ごす	ホームステイ
8 出発	日生中央 → 京都 京都・東京で観光の後、帰国	



ふるさとひょうご寄附金

県立学校環境充実応援プロジェクトとは？

“県立学校環境充実応援プロジェクト”で、**川西北陵を応援！**
卒業生の皆様、地域の皆様 よろしくお願ひします。
ふるさとひょうご寄附金制度を利用して、川西北陵を応援して
ください。

ふるさとひょうご寄附金の応援メニューのひとつで、教育の一層の活発化を図るため、学校ごとに寄附金活用事業を設定し、学校機能向上、学校の特色作りや部活動の応援、環境教育の充実等に充てます。



県立学校への寄附は、税控除の対象です。寄附された額のうち2,000円を超える部分については、一定の上限まで、所得税・個人住民税から全額控除されます。

学校ホームページ・兵庫県ホームページから寄附申出書を入手されご記入のうえ本校事務室へFAXなどご提出ください。ご不明な点がございましたら、本校事務室(072-794-7411)までお問い合わせください。

また、制度の新しい説明は兵庫県教育委員会財務課ホームページをご覧ください。

ALUMNI COMMUNICATION PAPER

同窓会を盛り上げよう！

会報賛助金報告

ご協力ありがとうございました

卒回	入金件数	卒回	入金件数	卒回	入金件数
旧職員	18	13	3	28	3
1	9	14	2	29	3
2	7	15	3	30	9
3	12	16	3	合計	141
4	4	17	5		
5	10	18	6		
6	7	19	3		
7	7	20	1		
8	3	21	1		
9	3	23	4		
10	4	24	2		
11	2	25	4		
12	2	27	1		

原稿募集

同窓会報は、さまざまな活動を掲載します。今後いろいろな情報を掲載し、会員相互の情報交換の場にしたいと思ひます。そこで、会員の皆様から次のような原稿を募集いたします。

- ・同期会、クラス会、OB会の報告
- ・旅行記、修学旅行、入学式、高校時代の思い出
- ・卒業生のご活躍の方々、お店の紹介
- ・同期会等の開催告知 etc...

方法は、北陵高校内同窓会事務局まで、ご連絡下さい。その際には、卒業年次・クラス・住所・氏名(回生)・電話番号をお忘れないうちにお願ひいたします。また、写真等もお送りいただけますと幸いです。尚、紙面の都合上、掲載できない場合もございますので、ご了承下さい。

同窓会公式ホームページのご案内

同窓会員の皆様の日常的なコミュニケーションの場となるSNS形式のホームページを運用中です。懐かしい再会、新しい出会いの場として楽しくご利用ください。

◎「ID」と「パスワード」は、**bikita内よりお問い合わせください。**

- ◎登録した名刺から、友達の名刺メッセージが送れます！
- ◎コミュニティは会員が自由に参加・コメント開設できますよ！



3ikita 母校・同窓会の情報が満載! <https://www.bikita.jp>



携帯・スマートフォンから



QRコードから <https://www.bikita.jp> にアクセスします。

本同窓会は、小野高速印刷(株)の運営する同窓会コミュニティサイトBikita(ビキタ)を利用し、ホームページとメール転送サービスを行っております。